



こころざし

【学校教育目標】
夢の実現に向かって たくましく
挑戦する児童生徒の育成

唐津市立加唐小中学校

第 8 号

令和6年7月18日発行

文責 校長 多久島 一仁

海のレジャー、サップ体験をしました

7月11日（木）に佐賀県ヨットハーバーでサップ体験を行いました。これは、いきいき学ぶからつつ子育成事業の一つで、海に囲まれた加唐島・松島の子どもたちに、海のレジャーに親しみ、海での活動や自然の中で体を動かすことを好きになってほしいとの思いから実施しました。市内の高校にはヨット部やボート部があり、また、松島のグランピングでもこうしたレジャー体験がなされていることから、中学卒業後の進路として考える材料や、将来の海の仕事の一つとして考えることもできたのではないかと思います。

午前中は、サップやカヤックの体験を行い、ヨットハーバーから海岸までの数百mを漕ぎました。カヤックはボートのようになっていて、それをパドルで漕いで進みます。サップは一人乗り用と数人乗り用がありましたが、一人乗りが人気で、帰りに数人乗り用に乗ったのは職員だけでした。子どもたちは上手にパドルを操り、また、後半は立ってサ

ップに乗れるようになりました。私などは立って漕いで数回海に落ちましたが、子どもたちの中には一度も海に落ちない子もいて、運動神経のすばらしさに感心しました。

午後はロープワークやヨットについての学習がありました。



ロープワークは「巻き結び」「クリート結び」「もやい結び」の3つを教えていただきました。どれも難しく、私は何度やってもなかなかできませんでしたが、子どもたちの中にはスピードを競うほどできるようになった子もいました。これを一瞬でなされる船員さんの凄さを感じました。

ヨットは、後ろから風を受けて、真っすぐ風下に向かって走るのが速いと思っていたのですが、それだと空気抵抗を受けるため、逆にいちばん遅いのだということを知り、驚きました。また、風は一様に吹くわけではなく、雨が降ることや地形、川の流れなどによっても様々な変化があるため、それに対応してヨットを操縦する必要があることを知りました。まさに自然と一体となったスポーツだということでした。

サップなどの体験を「またやりたい！」と話してくれた子どもたちもいました。今回の体験を通して、子どもたちが唐津や海のことをもっと好きになってくれたらいいなと思います。

平和集会でたくさんの考えを発表しました

7月16日(火)に平和集会を行いました。今回は、人権擁護委員の野崎榮子さんと井上智晴さんにおいでいただき、『へいわってどんなこと?』(浜田桂子著)を使ってお話いただきました。

まず、「人権」について話されました。人権とは、安心・安全・幸せ・健康に暮らす権利であり、命を大切にすることとだという話をされました。



次に、平和とはどういうことか尋ねられ、子どもたちからは、「悲しいことがない」「戦争がない」「笑える」「自由に暮らせる」「食べ物が食べられる」という意見が出ました。

また、もし、戦争があったら、という問いに対しては、子どもたちは「生きられない」「自由に暮らせない」「ごはんをもらう」「大事な人がいなくなる」「家が壊される」「好きなことができない」と答えていました。

本の中で、野崎さんがいちばん印象的だったのは、「へいわって、僕が生まれてよかったってこと」という話をされました。戦争があってもなくても、子どもたちが「生まれてきてよかった」「だれかの役に立ってるんだ」という実感をもてる世の中にしたいと思いました。

